

家庭菜園相談室

今月のテーマ

家族でイチゴ狩りが楽しめちゃうかも!?

施設園芸技術や品種改良が進み、真夏を除けばほぼ1年中買い求めることができるイチゴ。人気の野菜で、ご自宅で栽培すれば、子どもたちも喜ぶこと間違いなし!



図1 作型目安

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
露地栽培	△							□ □	□ □
トンネル栽培	△						□	□ □	

△ 植付け □ 収穫 --- マルチ・トンネル被覆

●栽培のポイント

イチゴの根は肥料焼けを起こしやすいので、元肥は、植付ける15~20日前に施し、土に良く馴染ませます。

イチゴは、実の着く方向が決まっていますので、植付け時は、ランナーの切り跡を収穫する通路側と反対側に向けて植付けます。また、葉のつけ根は必ず地上に出して、深植えしないように注意してください。

●品種

最近ではたくさんの品種が出回っており、イチゴを買うというより、「あまおう」「とちおとめ」「紅ほっぺ」といったブランド名で買われるようになりましたが、家庭菜園では、作りやすい品種から挑戦しましょう。

- 宝交早生：とろける柔らかさと、甘酸っぱい果実、育てやすく初心者向けの品種。病気に強い。
- 女峰：香りが強く、ほどよい酸味が味をひきしめて美味しい品種です。形がきれいな果実になりやすい。
- とちおとめ：高い糖度で、濃厚なイチゴの味が楽しめる人気の高い品種。
- 紅ほっぺ：大粒の果実とイチゴ本来の深い味わいが楽しめる品種。
- 白いイチゴ：果皮が白色から淡いピンク色の「初恋の香り」桃の香りの「桃薫」など。

畑の準備：植付けの2~3週間前に完熟堆肥2^{kg}/㎡と油粕300^g/㎡及び化成肥料(8-8-8)100^g/㎡を施します。

栽植密度：畝幅80~90^{cm}、株間30^{cm}、畝高10~20^{cm}(水はけの悪い畑では高畝にする)

植付け：初めて栽培するときは、苗を購入して植えると良いでしょう。10月下旬から11月上旬、株元についているランナーの切り跡を畝の内側に向けて植えると花が外側に出てくるので管理しやすくなります。また、クラウン(葉の付け根)が少し出る程度に植付けます。植付け後は十分に灌水します。

トンネル：早く収穫したいときは2月以降にビニールトンネルをかけて保温します(トンネル内の温度が28℃以上にならないように換気する)。また、雑草防止と果実の汚れを防ぐためマルチを利用する。土壌の湿度や温度変化が緩やかになり、土のはね返りを防止します。

追肥：1回目は植付けから30~40日後株元から10~15^{cm}離れたところに化成肥料(8-8-8)80~90^g/㎡施し軽く土に混ぜます。2回目は冬越しした2月上旬~中旬(マルチをする前)、畝の肩の部分に化成肥料(8-8-8)50~60^g/㎡をばらまき、通路の土を被せます。

葉かき：冬の間は、枯れた葉だけを取り除いておきます。植付後に伸びてくるわき芽は花をつけることがあるので、残しておきます。果実肥大期になり、ランナーが伸びてきたら早めに切り取ります。

受粉：開花期になっても低温等で訪花昆虫(ミツバチ)が来ないときは、筆の穂先で軽くなぞり、受粉させると良い果実になります。トンネル被覆の場合は、温かい日中はビニールを開け、ミツバチが飛んでくるのを待ちます。夕方には、ビニールを閉じます。

収穫：十分色づいたら果実(果梗)を摘み取るかハサミで切り取ります。変形果は早めに取り除きます。



◎宝交早生



◎紅ほっぺ



◎初恋の香り